



第
102
号

発行日: 2026年2月1日
発 行: 特定非営利活動法人 おおつ環境フォーラム
(大津市地球温暖化防止活動推進センター)
住 所: 〒520-0047大津市浜大津四丁目1番1号明日都浜大津4階
電 話: 077(526)7545
フォーラムHP: <https://eco-otsu.net>
Eメール(事務所): forum@eco-otsu.net



<事務局長から> 立春を迎え梅のつぼみが膨らみ始めました。皆様の多大なるご支援、ご協力により2025年度事業締めくくりに向けた取り組みを行うとともに、2026年度事業計画(案)、予算(案)の策定等今後の事業推進に向けた取り組みを行っております。皆様の一層のご支援ご協力をお願い申し上げます。また、厳寒の折りご自愛くださいますように。

会員数106名(2026年1月末現在)

トピックス

○ おおつ市民環境塾講座9「琵琶湖の在来魚の産卵環境を考える」を開催しました

2025年11月29日、市民活動センターに国立環境研究所琵琶湖分室分室長の馬淵浩司氏をお招きして、おおつ市民環境塾講座9「琵琶湖の在来魚の産卵環境を考える」を開催し、15人が参加されました。

琵琶湖分室の紹介に続いて琵琶湖岸における湖魚の産卵と産卵のために農業用水を遡上する様子を撮影した映像が紹介されました。琵琶湖の漁獲量は、平成に入るとフナ類が急減し、平成7、8年になるとホンモロコも急減しました。ホンモロコ、ゲンゴロウブナ、ニゴロブナ等は湖岸の植物体に卵を産みつけます。琵琶湖総合開発による湖岸堤建設や人為的水位操作によって産卵・孵化できずに減ってしまったようです。沿岸の水田が乾田化しやすい水利構造となったことも影響しています。その対策として、県は湖岸堤建設に伴うヨシ帯減少を補うべく湖岸堤の沖側に波よけを設けて碁盤目状に人工ヨシ帯を造成しました。しかし必ずしも効果を上げていません。梅雨時期から台風期にかけての洪水対策のための低水位化操作で、コイが産んだ卵は孵化前に干上がってしまう。琵琶湖分室ではその対策のため、魚種別に卵をどこに産みつけるのかを湖岸各所で調査されました。卵ひとつひとつのDNA調べて魚種を特定しGPSにより地図に落とし込む緻密な調査です。その結果、開放水面はゲンゴロウブナ、ヨシの間はニゴロブナ、ヤナギの根元にはホンモロコやコイが産卵することが分かりました。ただし、湖底が不自然な人工ヨシ帯では産卵が見られません。造成部は年数がたつとヤナギが繁茂し一見自然のヨシ帯のようにはなりますが湖底は自然ヨシ帯のようにはなりません。用水路に堰・魚道を設けた水田には河口から2.5kmまで遡上産卵することも分かりました。漁業資源に巨大プランクトン問題や外来魚問題もありますが、産卵環境回復があってこそ資源が回復するのだといえるでしょう。なお、魚卵分布の調査結果は右のQRコードから閲覧できます。



○ おおつ市民環境塾講座10「地球にやさしい簡単料理」を開催しました

12月7日、平野コミュニティセンターでおおつ市民環境塾講座10「地球にやさしい簡単料理」を開催しました。

前半は会議室でフォーラムメンバーによる講義です。地球温暖化が進み気象災害など影響が出始めていることやその原因となるCO₂排出が家庭、特に調理に関わるものから多いこと、そして食品ロス問題、環境にやさしい大豆ミートの利用などエコ料理教室を実施する背景と意義についての解説です。また、買い物時の注意、洗水の節約や無駄をださない調理法、ごみはぬらさないなどエコ料理のポイント、調理メニューごとのポイントなどを説明しました。後半は調理実習室に移動して実習です。欠席者が多く、最終的に参加は6人となり3班に分かれての実習です。メニューは、さつまいもごはん、大豆ミート入り豆腐ハンバーグ、冬野菜の素揚げ浸し、かき玉汁、長いもとりんごのサラダと盛りだくさんです。食材分配や時間のかかる



炊飯などをあらかじめ調理指導スタッフが実施しましたので、すべてのメニューを短時間で調理することができました。でき上がったところで全員そろって試食です。皮付き野菜もおいしく食べられました。試食の後はエコな手順に従って後片付けで完了です。「とことん利用」や「ごみ減量」等が体感できる実習でした。

プロジェクト等からの活動報告・お知らせ

《子どもが遊べる川づくりプロジェクト》

2025年12月21日、草津市立市民総合交流センターで開催された滋賀県流域政策局主催「第17回淡海川づくりフォーラム」で子どもが遊べる川づくりプロジェクト（川PJ）の活動を紹介しました。



淡海川づくりフォーラムは、『川やびわ湖、水辺と共生する暮らし』『川やびわ湖、水辺と私たちのいい関係』を築いていくために、水辺に関わる活動をしている団体が日頃の活動を発表しあい、相互に参考にする催しです。ワークショップやポスターセッションを通じて交流を深め、それぞれの活動への思いを共有し、発表団体の中から、その年の一番輝く活動をした団体がみんなの投票により表彰されます。今年は16団体、約200名が参加しました。参加者・発表者のほとんどが若い人たちで、中には「応援の花咲いた賞」を受賞した6歳の子どもさんもいて、明るい雰囲気の中で気楽に交流し、情報や意見交換をしました。川PJは表彰には選考されませんでしたが、多くの方々が声をかけてくださり、メッセージカードをいただきました。今後の川PJの活動につなげたいと思います。

開催の様相 →



おおつ環境フォーラム年会費の納入について

2026年度会費（個人正会員の場合2,000円）は、下記①か②のいずれかの方法により納入をお願いします。

①直接事務局（明日都浜大津4F）に持参する

②指定金融機関に振り込む

滋賀銀行本店営業部 店番110 普通預金503208

（振込手数料は納入者のご負担ください）

過年度会費が未納の方は必ず3月末日までに納入ください。未納が続くと退会扱いとなります。

《ビオトープづくりプロジェクト》

1月18日、春日山ビオトープで池の補修作業をしました。池底にたまった泥を掻き上げ、池水の出口となる土管の上流側で堰き止めてみました。1週間ほどで池は満水になるかと思います。そして、イノシシが突き崩した島を補修しました。また、アカガエルが産卵しやすいように本流の上流域にワンドのような水溜りを作りました。



■これからのフォーラム活動

プロジェクト等の名称	日 時	場 所・内 容
プロジェクト		
生ごみリサイクル	2月 19日(木) 14:00	市民活動センター//ボカシづくり
ビオトープづくり	2月 28日(土) 9:00	北大路どろんことーぶ//池と周辺の整備
	3月 29日(日) 9:00	春日山ビオトープ//会議
里山保全	2月 7日(土) 9:00	春日山公園//例会
	2月 16日(月) 9:00	春日山公園//例会
	3月 7日(土) 9:00	春日山公園//例会
	3月 16日(月) 9:00	春日山公園//例会
	4月 4日(土) 9:00	春日山公園//例会
エネルギー	2月 3日(火) 10:00	大津市センター//定例会議
	2月 17日(火) 10:00	大津市センター//脱炭素小冊子チーム検討会
	3月 3日(火) 10:00	大津市センター//定例会議
	4月 7日(火) 10:00	大津市センター//定例会議
委員会・実行チーム		
理事会	2月 6日(木) 14:00	大津市役所//意見交換会
	3月 19日(木) 14:00	市民活動センター//理事会
おおつ市民環境塾実行チーム	3月 26日(木) 10:00	大津市センター//会議
自然家族事業実行チーム	2月 2日(月) 13:00	大津市センター//会議
おおつエコフェスタ実行チーム	3月 26日(木) 14:00	大津市センター//会議

* 大津市センター；大津市地球温暖化防止活動推進センター（明日都浜大津4F）